

## インターハイ 30 回記念

## OB インタビュー

質問：第 30 回大会実行委員長 吉澤雄大

お名前

鹿島田浩二

出場した大会・成績

1 回大会 個人優勝・団体優勝、2 回大会 団体優勝

出身高校

桐朋高校

あなたが走ったインターハイで印象に残っていることを教えてください。

第 1 回は 2 年生でしたが、当時インターハイをつくろうと、早実、川和、浦和などの高校生で集まって実行委員会を作りました。競技面の準備は OB に任せ、会場手配や宿泊先などの運営面は自分たちで行った記憶があります。記憶が定かなら 140 名程度集まり、そのプログラムとスタートリストを作ったのは私でした。

トレインは、個人が神奈川の阿夫利林道という丹沢大山付近の急斜面の地図、リレーが逆に平らなトレイン（海軍道路だったでしょうか）でした。両方優勝しましたが、今記憶に残るのはむしろ運営で皆で準備した記憶ですね。

第 2 回は高校 3 年で受験直後、トレーニングができておらず、個人戦は体力が持たず棄権した記憶があります。確か優勝タイムが 2 時間近いハードなコースでしたが、OB がそのために地図を用意してくれた分コースに想いを込めすぎたのかもしれませんが。残念ながらリレーの記憶がありません。

今年でインターハイは 30 回となりました。最近のインターハイの印象を教えてください。

申し訳ないのですが、オリエンテーリング自体からここ数年離れており、最近のインターハイの状況について詳しく知らないのですが、OB のみなさんがしっかり準備している印象がありますね。また、高校生の選手と会話してもインターハイが大きな目標の競技会になっていると感じます。規模は大きくないかもしれませんが、高校生の 1 番を決める競技会としてしっかり定着しているのだと思います。ここでしっかり結果を出すことは競技者として重要なステップと感じます。

今振り返ってあなたにとってインターハイはどんなものでしたか？

一言でいえば「通過点」です。インターハイで優勝することは、高校生としては素晴らしいことですが、長い競技歴を振り返れば、それは出発点とさえ言えるかもしれません。オリエンテーリングは奥が深いスポーツです。海外に目を向ければ、最高峰の WOC はもちろん、O-Ringen、JWOC とチャレンジングで高いレベルの競技会が無数にあります。もちろん

ん国内でも次のステップとしてインカレ、全日本とあるでしょう。あるいは、別の見方をすれば、セルフマネジメントを学ぶ競技であり、海外経験を通じてグローバルな感覚を養う場、ともいえます。奥行も幅も高校生の想像する以上に広いのがオリエンテーリングというスポーツです。皆さんにはインターハイを起点に、さらに真剣にこの競技に取り組んで欲しいと願います。

以下ご自由にご記入ください。その中で中高生へのメッセージもお願いします

体育の世界では、ゴールデンエイジという言葉があります。10歳から12歳で様々な運動能力が発達する重要な時期といわれます。オリエンテーリングでいえば、肉体的にも地図を認知する頭脳も、まさに今皆さんの年齢がゴールデンエイジといえるでしょう。今行う1時間の真剣なトレーニングは、20代の3時間、30代の10時間に相当します。誇張ではありません。真剣に取り組めばそれだけ可能性が広がる、そういう時期にいます。もちろん勉学も家族も友人も大切です。それを踏まえても悔いの残らないよう、1時間1時間を大切に準備してください。

~~~~~

お名前                     齋藤 翔太                      
出場した大会・成績                     17回大会個人戦準優勝・団体戦優勝、18回大会個人戦優勝・  
団体戦優勝                      
出身高校                     桐朋 高校                    

あなたが走ったインターハイで印象に残っていることを教えてください。

17回大会の個人戦にて、自分は準優勝に終わりましたが、順位確定後に優勝した東海高校の山倉さんと自然に握手をした瞬間は今でも覚えています。

今年でインターハイは30回となりました。最近のインターハイの印象を教えてください。

- ・自分の代が優勝して以来、母校は優勝から遠ざかってしまっていたのですが、26回大会では個人戦で、そして29回大会では個人・団体双方で母校が優勝を獲得したことは嬉しかったです。
- ・24回大会の震災による開催延期及び代替大会の開催、25回大会の降雪による大会の中止と運営面で苦労した後に、その次世代のOBOGたちが開催時期を変更して大会の継続をよ

り確実なものに変えていったことが印象的です。

今振り返ってあなたにとってインターハイはどんなものでしたか？

現役のときはもちろん競技面で、そして OB になった後も運営面で自分の生活の中で大きな位置を占め、やりがいを感じて取り組んでいたものでした。

以下ご自由にご記入ください。その中で中高生へのメッセージもお願いします

30 回記念、参加者はもちろん、運営者も笑って終われる大会にしてください！

中高生は目の前のレースを全力で走って楽しんで、ぜひ OB になったらそのとき以上に楽しい大会を後輩のために作ってあげてください。

~~~~~

お名前 堀田 遼  
出場した大会・成績 第 21 回大会 個人戦 4 位  
出身高校 東海 高校

あなたが走ったインターハイで印象に残っていることを教えてください。

高 2 のインターハイ（第 22 回）で団体戦優勝したこと。実質 3 人のチームで頑張ってきて 3 人で優勝できたことが本当にうれしかった。

翌日の個人戦で 4 位に終わったこと。一番準備してきたレースでミスで自滅した悔しさが、大学でもオリエンテーリングを続ける理由になりました。

今年でインターハイは 30 回となりました。最近のインターハイの印象を教えてください。

自分も卒業後インターハイの運営に何度もかかわってきて、その後少し距離ができてきましたが、最近のインターハイはよりオープンで一般の参加者も増えてきている一方で、昔と変わらず高校生のアツい勝負が見られるのが嬉しいところです。

今振り返ってあなたにとってインターハイはどんなものでしたか？

大学に入ってインカレの規模の大きさと盛り上がりには驚きましたが、インターハイも負けず劣らず、中学から 5 年間かけて目指す価値のある舞台だったと思います。今の現役生に

としては当然かもしれないですが、自分のころは関東との距離が遠く交流の機会も少なかったので、そういった意味でも貴重な存在でした。

以下ご自由にご記入ください。その中で中高生へのメッセージもお願いします

この頃はどちらかと言えば運営側の視点から見ることの多いインターハイですが、母校の走りをいつも応援しています。団体戦優勝カップを取り返してくれることを期待しています。

~~~~~

お名前           澤口 弘樹            
出場した大会・成績           24,25回大会            
出身高校           桐朋高校          

あなたが走ったインターハイで印象に残っていることを教えてください。

25回大会の駒ヶ根インターハイが印象的です。高校2年生で自分にとっては最後のインターハイでしたし、個人戦が積雪により中止になるというハプニングも懐かしい思い出です。あの時のリレーはとても熱戦でした。当時、東海が角田(1年)―平原(1年)―坂野(2年)、桐朋が久保田(1年)―坂梨(1年)―澤口(2年)というオーダーで、共に1年生2人、アンカーが2年生という構成でした。今の大学オリエンテーリング界でも活躍している選手ばかりです。レース展開は2走までで東海の2チームが1位争いをしていて、3位が桐朋でした。トップとの差は5分でチェンジオーバー。その後ミスリミスられの繰り返しで、最終的に40秒差まで詰め、1位が東海、2位が桐朋の接戦となりました。これほどの僅差の団体戦はその後もなかったんじゃないかな。レース展開も結果も含めて、鮮明に覚えています。そして、当時は追いつき抜かすことのできなかった背中を、4年かけて後輩が打ち破りました。同じ駒ヶ根の地で。昨年度のインターハイも含めて、僕にとっての25回インターハイが幕を閉じたように思います。

今年でインターハイは30回となりました。最近のインターハイの印象を教えてください。

最近のインターハイは運営者として携わっていました。目の前で競い合う中高生を見て感じるのは、選手のレベルが上がっているということです。高校生の中には大学生と比べても引けを取らない選手もいます。また参加者数も年々増加しているのではないのでしょうか。

規模としても競技としても盛り上がりの中にインターハイがあると思います。この勢いをぜひ活かしてほしいです。

**今振り返ってあなたにとってインターハイはどんなものでしたか？**

今の自分の土台だと思います。高校時代、インターハイという目標に向かって取り組んだ日々があり、大学に入ってからオリエンテーリングという競技と向かい合えました。

といつつも、実をいうと、選手として参加したよりも運営者として携わった回数のほうが多いんです(笑)。なので、やはり運営側としてのインターハイの印象のほうが強いですね。インターハイを運営することで様々なことを経験し学びました。いろいろと悩んだこともありましたが、今の自分を築いている大事な体験です。

インターハイを通してつながりも増えました。当時競り合っていたライバル、一緒に練習やトレーニングをしてきた部員、一緒に大会を作り上げた仲間。

こうして巡り会えた<sup>ファンタジー</sup>奇跡に乾杯。

**以下ご自由にご記入ください。その中で中高生へのメッセージもお願いします**

毎年必ずインターハイはあるもの。実はそんなことはないんです。僕が参加した24,25回大会は地震や積雪といった自然の脅威により中止となってしまいました。中止となった陰で、そのために準備をしてきた人たちの姿があります。

今年で30回を迎えるインターハイですが、30年間いろんな人が襷をつないできました。30年とはとても長いですね(といつつも、いつの間にか30歳とかになっちゃうんだろうな)。

そんなおっさんくさいことを考えちゃうようになっちゃいました。インターハイを走っていた時からいつの間にか5年も経っていました。早いんですね。今でも時々高校生の気分になっちゃうときもあるのに。

長々と書いていますが、インターハイはとても楽しいイベントです。とにかく、一年に一度の大大大大ビッグイベントです。その瞬間を目いっぱい楽しんでください(運営する人たちもね)。

負けたら悔しいし、勝ったら感動するし、どっちにしても泣いちゃうくらいインターハイに賭けてほしいです。泣けるくらい努力できるのって、それだけですごいことだと思います。結果がついてくるかは神様にしかわからないけどね。

涙が出るような結果になったら、それだけ思い出として残るってもんです。僕も駒ヶ根インターハイの時は号泣でした。

インターハイを目標として練習やトレーニングに取り組み、一丸となってライバルにぶつかり合う。そんな戦いをこれからも毎年見てゆきたいです。

あと、せっかくだから大学生になってもその先も、どんな形でも構わないからオリエンテー

リングを続けてほしいです。オリエンテーリングに出会えたのは運命かもしれないんだから(笑)

最後に

桐朋生、頑張れ！応援してます。(桐朋だけじゃなくて、中高生全員がんばれ！)

~~~~~

お名前 柴沼健

出場した大会・成績 26回大会 ME1位、27回大会 ME2位

出身高校 桐朋高校

あなたが走ったインターハイで印象に残っていることを教えてください。

26回大会個人戦で大きなミスの後諦めずに走ったら、勝利を拾えたこと。

また、27回大会個人戦では6kmのコースで1位の長谷川に6分差つけられたこと。

今年でインターハイは30回となりました。最近のインターハイの印象を教えてください。

今回もそうだがトレインが魅力的だと思う。

今振り返ってあなたにとってインターハイはどんなものでしたか？

高校でのオリエンテーリングを思い出す時、まずインターハイが思い出される。そんな大会。

以下ご自由にご記入ください。その中で中高生へのメッセージもお願いします

インターハイへの意気込みは人それぞれだと思いますが、是非皆さん楽しんでください！

~~~~~

お名前 稲森 剛

出場した大会・成績 \_\_\_\_\_

中2 24回大会 富士(代替大会) 中学選手権 個人 14位

中3 25回大会 駒ヶ根 中学団体

高1 26回大会 埼玉 高校団体 1位 個人15位

高2 27回大会 富士 高校団体 1位 個人3位

高3 28回大会 日光 高校個人1位

出身高校 東海高校

あなたが走ったインターハイで印象に残っていることを教えてください。

24回大会。はまうづ速ええええええええええ(4.1km濱宇津33分、自分は52分)。

25回大会。坂野先輩と澤口さんの熱い戦い・真っ白になった駒ヶ根の広場。

そして、27回大会、高2だった時のインターハイです。個人戦も団体戦も。6.5kmの個人戦は、ロングを走った経験が少なかった当時の自分にとってはかなり長く感じられました。コースの前半はかなり難しめ、後半は小道をつなぐ比較的簡単なダウンヒルで、前半そこそこ上手に走ったつもりでしたが、そこだけで長谷川に5分も差をつけられ、後半は絶好調でしたが、終盤に小径を見失い鉄塔下のD藪に突っ込むミスをしました。最終的な長谷川との差は、確か8分くらいで、ただただ負けたなと思っていました。この敗北感からの練習が、その半年後の菅平の全日本ロングでの優勝へつながったと思っています。

団体戦は、種市・稲森・長谷川で走りました。優勝は間違いないだろうと思って走り、その通りでありましたが、高1の終わりころから、何回も何回もリレーをした、このチームで走るときの、ワクワクドキドキや安心感を思い出すととても懐かしく感じます。

それから、高1の時のインハイも、高2の時のインハイと比べ印象は薄いですが、今の自分にとって、とても大事な出来事でした。一日目の団体戦はBチームで優勝、翌日は全然歯が立たず15位。団体戦の表彰式も2日目にまとめて行われたのですが、個人戦でボロボロになった悔しさと悲しさで、ろくに表彰されている気分になれませんでした。団体戦はたまたま優勝できただけで、俺なんか走るのもクソ遅いし、下手くそだし、全然ダメだって気持ちで団体戦優勝の表彰を受けていた記憶があります。今思えば、個人戦は個人戦として反省して、団体戦の結果は、個人戦とは切り離して、素直に喜んで表彰を受けておけば良かったなと思っていますが、その時はそんな気分になれませんでした。これがきっかけで、もっと速くなりたいという気持ちが強くなり、いろいろやって、この時から物凄く伸びました。

今年でインターハイは30回となりました。最近のインターハイの印象を教えてください。

最近のインターハイの印象と言っても、高校卒業してからまだインターハイは一度しかありませんでしたが、中高生の熱い戦いは変わらないと思っています。

今振り返ってあなたにとってインターハイはどんなものでしたか？

インターハイに全力で挑んだ結果が、良かった結果も悪かった結果も、その次へのモチベーションにつながってきたと思っています。このような場があったことに感謝しています。

以下ご自由にご記入ください。その中で中高生へのメッセージもお願いします

できる限りの準備をしてレースに臨み、スタートに立ったら結果は気にせず、全力で！！  
どんな走りが見られるか楽しみにしています。頑張れ！！

~~~~~